

釧路市サイン等多言語表記ガイドラインの策定について

背景

訪日外国人旅行者の増加
観光立国ショーケース
国立公園満喫プロジェクト
広域観光周遊ルート
水のカムイ観光圏

訪日外国人旅行者に
ストレスを感じさせない
受入環境整備の必要性

釧路市サイン等多言語表記ガイドライン策定
施設看板や標識、パンフレット等の多言語表記の指針として

多言語化推進地域

●交通拠点

釧路空港、釧路駅、駅前バスターミナル、阿寒湖バスセンター、耐震・旅客船ターミナル等

●観光拠点

釧路市街地及び阿寒湖温泉のストレスフリーエリア、釧路湿原エリア、阿寒丹頂の里エリア等

●スポーツ拠点

大規模運動公園エリア、釧路アイスアリーナ(日本製紙アイスアリーナ)、国設阿寒湖畔スキー場等

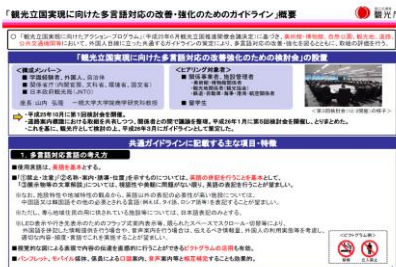
●主要道路

国道38号・44号(釧路新道、釧路外環状道路含)、国道240号、道道24号釧路停車場線等

【多言語対応を行う基本的な考え方】

●「観光立国実現に向けた多言語対応の改善・強化のためのガイドライン」(平成26年3月・観光庁)に準拠します。

●国立公園に関する名称については、「自然公園等施設技術指針 多言語表記対訳語集」(平成27年8月改定・環境省)、自然地名、居住地名および施設名については、「地名等の英語表記規程」(平成28年3月・国土地理院)に準拠します。



観光庁ガイドライン概要
(観光庁HPより)

多言語対応
に使用する
言語

「英語」を基本とする。

ただし、地域や施設の特性、多言語表記後の視認性を考慮し、必要に応じて、中国語などその他の言語を含めて多言語化を図る。

(例) 中国語(繁体字・簡体字)、韓国語、ロシア語、ベトナム語、タイ語等

ピクトグラム
(案内用図
記号)

JIS規格による案内用図記号(JISZ8210)を基本とする。

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の「標準案内用図記号ガイドライン」に準拠。



多言語での
表記方法
(一部抜粋)

◎一般的な固有名詞

・日本由来～表音表記[例:釧路 Kushiro 阿寒 Akan 音別 Ombetsu]

・外国由来～外国由来部分を英語表記[例:ニューオリンズ New Orleans]

◎普通名詞部分を含む固有名詞

・普通名詞以外の部分を表音、普通名詞部分を表意表記[例:山花公園 Yamahana Park 春採湖 Lake Harutori]

◎一般施設名～施設設置者が定める英語名称のほか、原則として固有名詞部分を表音表記し、普通名詞部分を英語表記

◎橋～原則として固有名詞部分を表音表記し、「Bridge」をつける
[例:幣舞橋 Nusamai Bridge]

◎道路～道東自動車道「DOTO EXP」、国道「(National Highway) Route + 路線番号」、国道38号釧路新道「Kushiro Shindo」、国道38・44号釧路外環状道路「Kushiro-Sotokan Road」、都市計画道路「都市計画道路名称 + Avenue」[例:北大通 Kita-odori Avenue]

◎居住地名

・「町」の名称がつく場合、「machi/cho」を続けて表記[例:柳町 Yanagimachi]

・「東、西、南、北、上、中、下、新」が固有名詞の前につく場合「-」やスペースは入れない[例:新釧路町 Shinkushirocho]

対訳語一覧

市有施設名など106項目の英語表記を掲載